

# みほとけ

〒339-0008 さいたま市岩槻区表慈恩寺990

TEL 048-794-1759

FAX 048-794-3388

E-mail jyougenji@hotmail.com

## 常源寺と檀信徒をつなぐ

### 光陰虚しく度ること莫れ

11月に入ると朝晩の冷え込みも厳しくなり、残暑から秋を飛び越えて一気に冬の気候となりました。境内の木々の葉も例年より早く落ち、お寺もすっかり冬の装いとなりました。早いもので令和6年も残りあと1ヵ月足らずで終わりです。皆様にとってこの一年はどんな一年だったでしょうか。毎年、年の瀬のこの時期になると時間の経過の早さに気付かされる方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。

曹洞宗の寺院において、毎朝のお勤めでお唱えするお経の一つに「参同契」というものがあります。これは、中国の唐の時代の禅僧である石頭希遷せきせん禅師が禅の教えを説いたもので、皆様の御法事でもお唱えしているお経です。このお経の最後に「光陰虚しく度ること莫れ」という一説があります。光陰とは月日、つまり時間の経過のことで、時間を無駄にすることのないようにという意味です。時間というのは実に不思議なもので、皆様にとって同じ長さであるにもかかわらず、とても長く感じたり、あっという間に過ぎ去ったり、人それぞれその感じ方には違いがあります。しかし、時間の経過が長かったり短かったりするわけではなく、また、空しいとか空しくないというわけではなく、同じように過ぎていく時間を私たちが空しくしたり有意義にしたりしているのです。

長く感じる時間も、あっという間に感じる時間も、過ぎ去ってしまえば二度と戻ってくることはありません。どのように過ごし、どのように感じるかもすべては自分次第です。まもなく一年が終わろうとしているこの時期、「光陰虚しく度ること莫れ」という言葉の意味を噛みしめ、改めて時間を大切に過ごしていきたいものです。



#### ■ 暮らしの中の仏教用語

##### 舍利（しゃり）

舍利とは、聖者の遺骨を指す言葉で、仏教を開きになったお釈迦様の遺骨を「仏舍利」と言います。お釈迦様がお亡くなりになった際、その遺体は火葬にされました。その遺骨を求めて八つの部族が争い、結局、遺骨は八等分されました。仏舍利をもらった八つの部族は、それぞれその遺骨を自国へ持ち帰り、供養するために塔を建てました。これが仏舍利塔です。

現在、すし屋などで白い米飯のことを、俗に「シャリ」と呼んでいるのは、銀飯の艶やかな色や形が仏舍利に似ていることからきたと言われています。

皆様の御法事では、墓前にて、御先祖様の御遺骨に対して礼拝する内容の「舍利礼文」というお経をお唱えして御供養しております。

#### ◇ 仏教なんでもQ&A ◇

##### Q 位牌って何ですか？

A 位牌とは、御戒名や御命日等を記し、仏壇に安置して供養や礼拝の対象として祀るものです。普通、四十九日までは御葬儀で使用した白木の位牌を祀り、四十九日以後は塗位牌を仏壇に安置します。

位牌の「位」は、霊としての位、あるいは故人様が仏弟子として定まる座位を意味するものと考えていただければよいでしょう。位牌は、故人様の身心が仏壇に宿るために大切なものであり、また仏弟子として修行しておられる姿を形に表したものですから大切にお祀りしてください。

新しく位牌をおつくりした場合、また、古くなった位牌をお焚き上げする場合、位牌の御供養をいたしますので、お寺まで御相談ください。

# 新春法要 修正会

まもなく新年を迎えます。皆様は新年を迎えられると様々な神社や仏閣に初詣をされることと思いますが、菩提寺のある方は、新年を迎えられたら、まず御自宅の御仏壇にお参りをし、菩提寺へ出かけ、御本尊様にお参りをした後、お墓参りをして新年の御挨拶をいたしましょう。

当山では、檀信徒の皆様の幸せ、国家の繁栄、人類の平穏、諸縁吉祥等を願って、毎年恒例の新年最初の法要である修正会を下記のとおり厳修いたします。家内安全、除災招福、学業成就、病氣平癒等、お一人お一人の祈りを込め、心新たに新年を迎えましょう。どうぞ、御家族そろってお参りください。

**日時** 令和7年1月2日（木） 午前10時より

**場所** 常源寺 本堂

- ◎事前のお申込みや御予約は必要ありません。
- ◎御布施や御志等は不要です。また、平服でお越しただいで結構です。
- ◎当日お参りいただいた方には、令和7年のカレンダーと祈祷札をお渡しいたします。

## 秋季彼岸法要を厳修しました

9月22日（日）秋のお彼岸の中日にあたる秋分の日、秋季彼岸法要を厳修いたしました。常源寺檀信徒の皆様の家門繁栄、諸縁吉祥を御祈願した後、皆様の大切な御先祖様、永代供養墓に合祀されている故人様の御供養を、心を込めてお勤めいたしました。当日は小雨が降るあいにくの天候でしたが、多くの方に御参列・御焼香をいただきました。

## 開山忌(かいさんき)

開山忌かいさんきとは、お寺を開創した初代の御住職様の御命日のことで、毎年開山忌にはそれぞれの寺院で、お寺を創建された初代御住職様の御遺徳を讃えるとともに、歴代の御住職様方に対して報恩を捧げるための御法要を営んでおります。

常源寺は、今から約400年前の江戸時代前期にあたる元和5（1619）年、さいたま市岩槻区にある龍門寺の5代目住職とくがいふんきょう徳外文 堯和尚によって創建されたと伝えられています。徳外文 堯和尚は、常源寺の他にもふたつのお寺をお開きになり、元和9（1623）年11月11日にお亡くなりになりました。その御命日にあたる11月11日、常源寺においても開山忌の御法要をお勤めいたしました。



## お知らせ

最近、転居や電話番号の変更等の理由により、墓地の所有者の方と連絡がとれなくなってしまうケース、お寺から檀信徒の皆様への郵便物が宛先違いで送り返されてしまうケースが増えてきております。

恐れ入りますが、住所や電話番号を変更した場合、または、墓地の所有者の名義を変更したい場合は、必ず事前にお寺までお知らせください。皆様の御理解と御協力をお願いいたします。